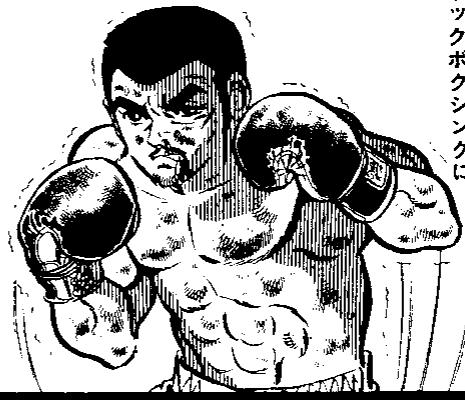


若い血潮と  
情熱を  
なぐられても けられても  
たたきつけて……  
おおしく立ちあがりつづける  
不屈の魂の記録である！

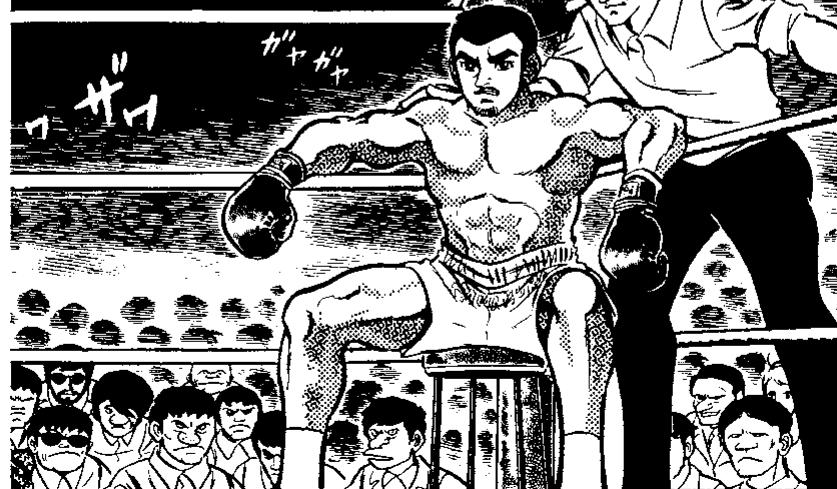


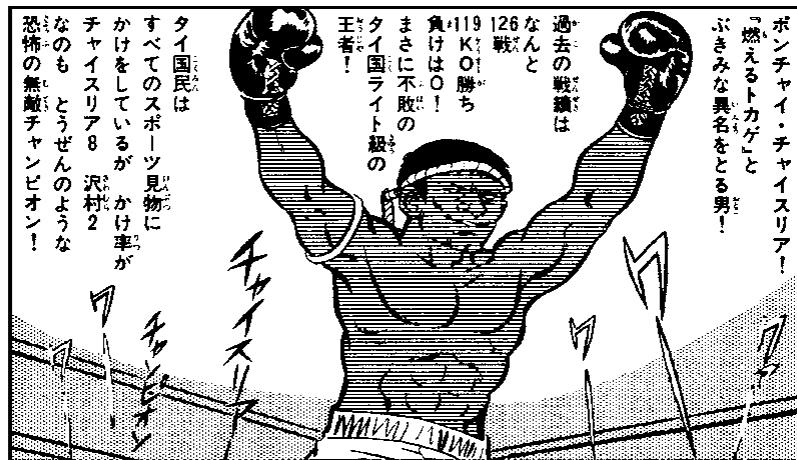
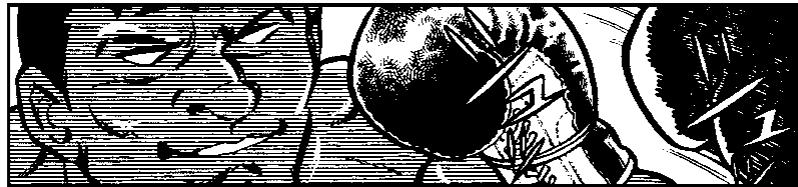
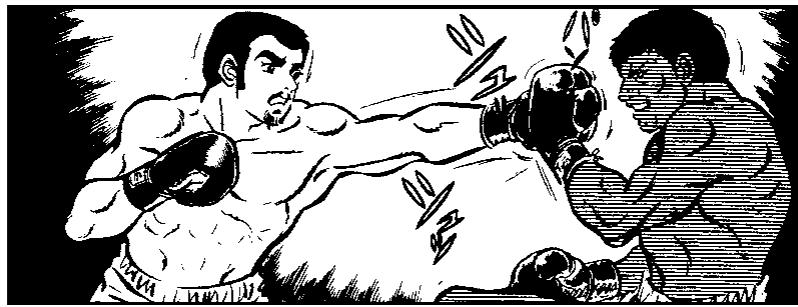
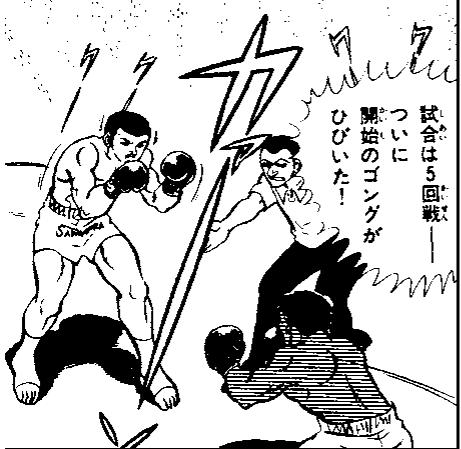
野球 相撲 ボクシング プロレス  
につぐ 第五のプロ・スポーツ  
キックボクシングに

かれらは 例外なく  
一種の敵意を  
この日本からきた  
キックボクシングの  
チャンピオンに  
いだいていた……

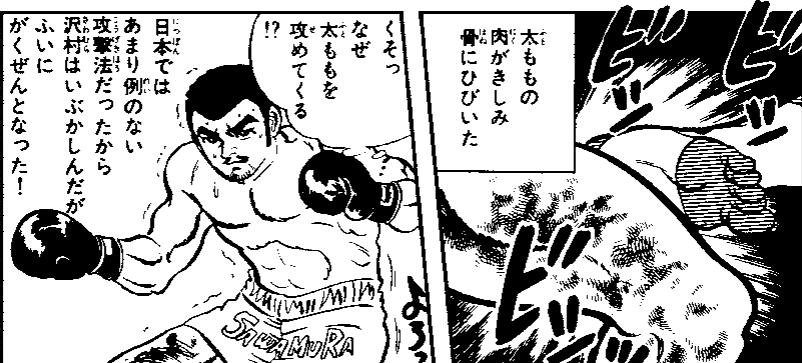
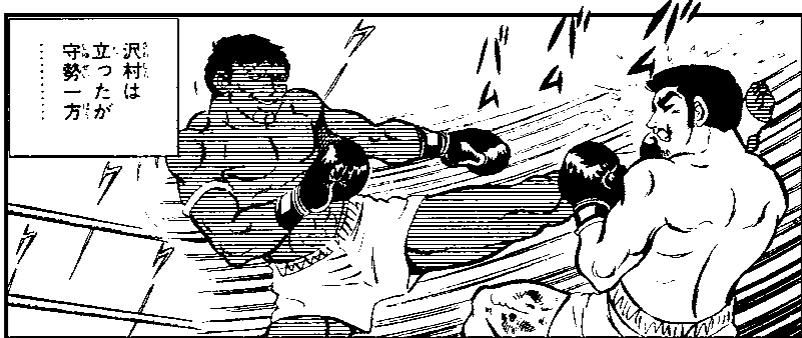
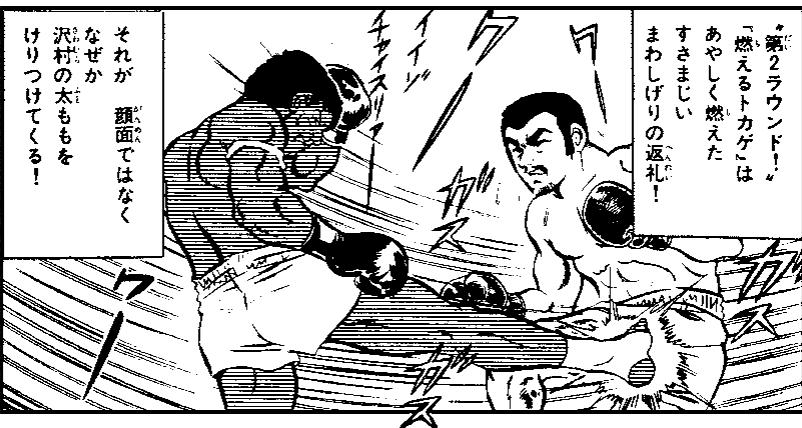
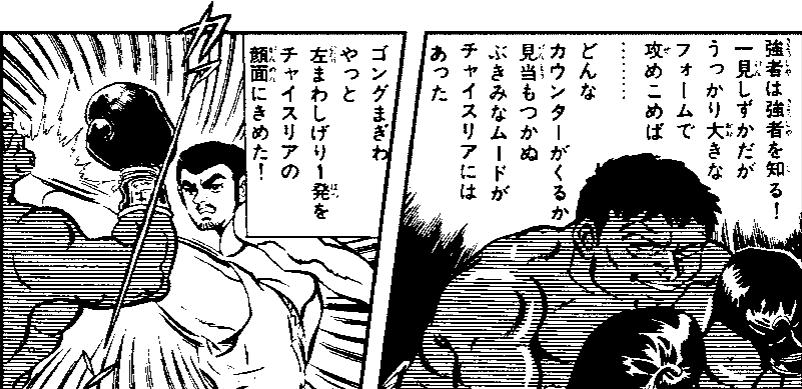


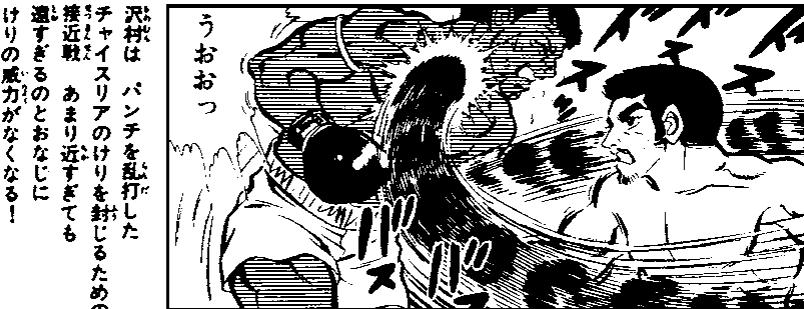
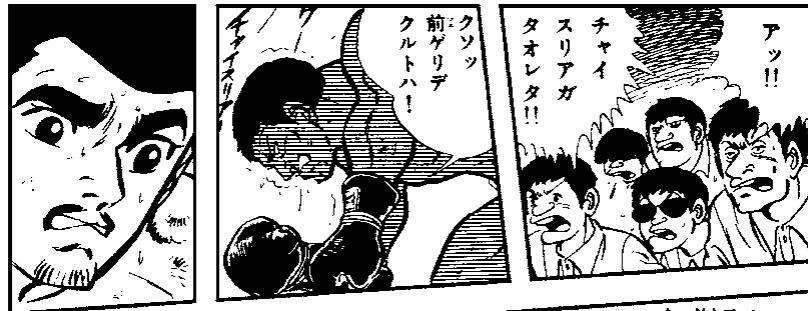
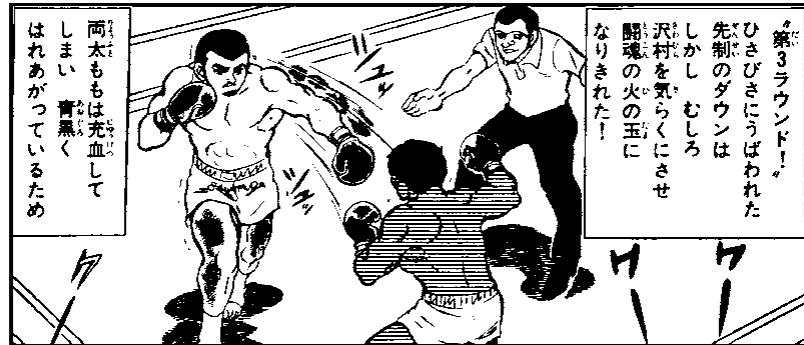
昭和43年9月13日夜  
キックボクシング東洋ミドル  
級チャンピオン沢村忠は  
遠く母國日本をはなれたタイ  
国のルンビニースタジアムの  
特設リングに立っていた  
暗くムンムンと暑い客席には  
超満員（一万五千）のタイ人  
ファンが 津波のように  
どよめいていた……

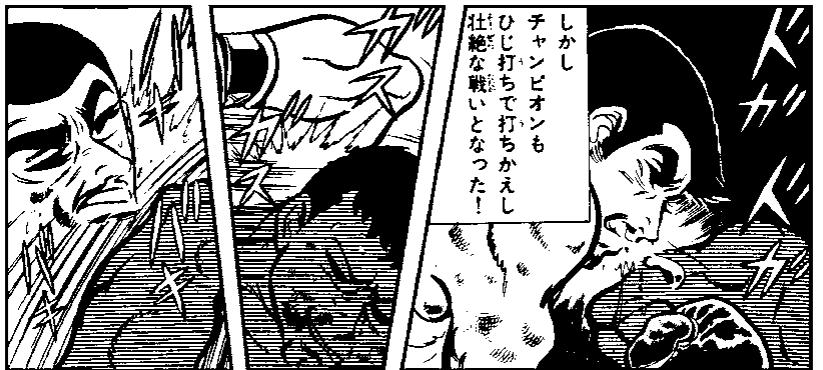




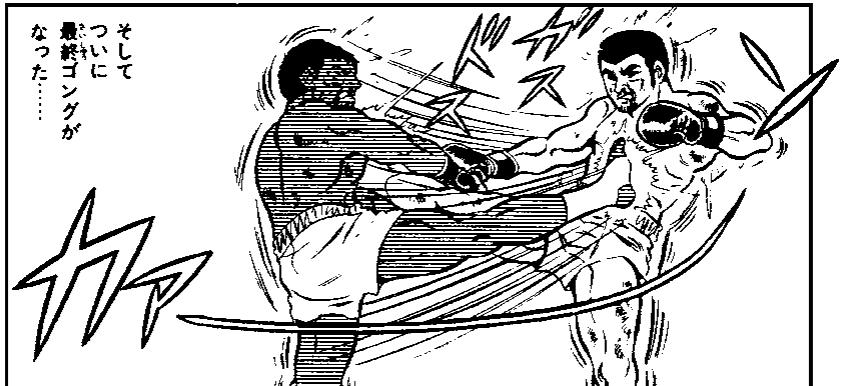
澤村はガードをかため  
左ジャブをつかって  
しんちょうに攻めこむが  
いつもの先制武器にする  
十八番のまわしげりがない  
いや、だせない!



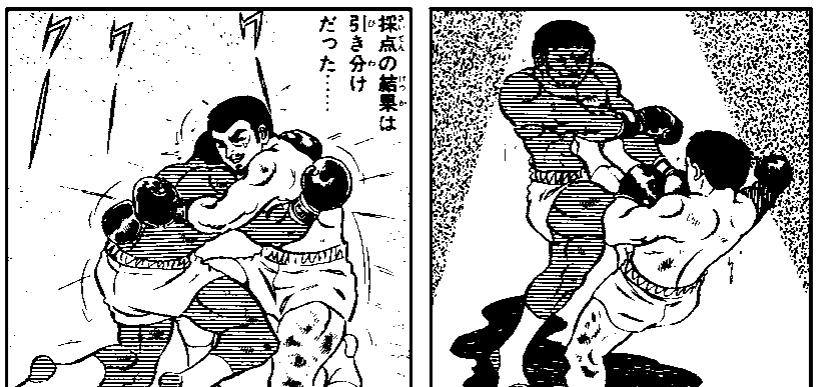




しかし  
チャンピオンも  
ひじ打ちで打ちかえし  
仕絶な戦いとなつた！



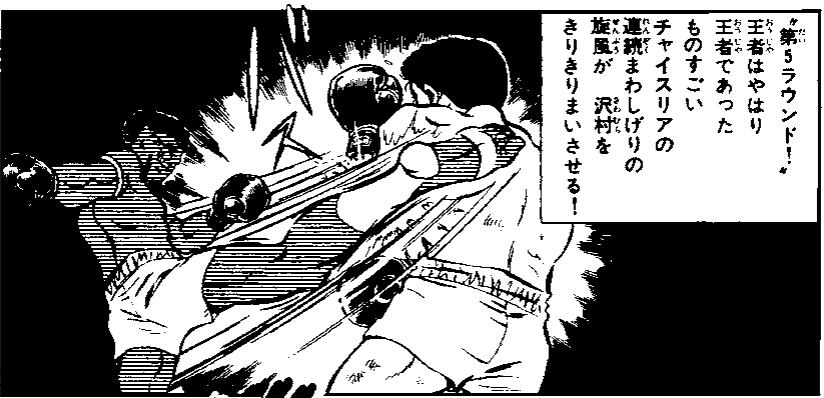
そして  
ついに  
最終ゴングが  
なつた……



採点の結果は  
引き分け  
だつた……



第4ラウンド…  
前回のダメージから  
回復しきれない  
チャイスリアに  
沢村は、いつまに  
猛攻ひじ打ちの連打！



第5ラウンド…  
王者はやはり  
ものすごい  
チャイスリアの  
旋風が、沢村を  
きりきりまいさせる！



しかし  
ひじ打ちで  
反撃！

